

## 「コロナの時代」の県づくり

山口県知事

村岡 嗣政氏



### I 県政の最重要課題 ～人口減少の克服～

- 県政の最大の課題は、人口減少問題である。今後 25 年間で減少する 30 万人のうち、20 万人が生産年齢人口であり、労働力の不足が懸念される。

### II やまぐち維新プランと地方創生

- 県では、平成 30 年 10 月に、「やまぐち維新プラン」を策定し、現在、「活力みなぎる山口県」の実現を目指して、県づくりの取組を進めている。
- これまでの取組により、200 件を超える企業誘致や、移住者数の倍増、教育現場での 1 人 1 台タブレット端末の整備など様々な成果があがっている。

### III 新型コロナウイルス感染症への対応

- 本県でも 7 月中旬以降、感染者数が急増しているが、県民のご理解とご協力、医療機関のご尽力をもらいながら、全力で対応に当たっている。
- 一方で、社会経済が疲弊していることや、オミクロン株は重症化率が比較的低いことなどを踏まえ、現時点では、新たな行動制限を行うことなく、感染拡大を抑制しながら社会経済活動を回していくこととしている。

### IV これからの県づくり

- コロナ禍で大都市の集中リスクが広く認識され、東京などへの転出が大きく減ったことに加え、テレワークの普及など環境の変化を機に、家族で転入する事例も増えてきた。
- コロナ禍という危機から生まれた変化を成長へつなげるため、本県の DX 推進の中核となる施設として、「やまぐち DX 推進拠点 Y-BASE」を開設するなど、デジタル改革を推進している。
- 県では、首都圏を中心とする大都市で働く人をメインターゲットに、「テレワーク移住」と「ワーケーション」を一体的に推進し、本県への新たな人の流れの創出・拡大していきたい。

### V 新たな総合計画の策定

- 現在、山口県の新たな未来に向けた県づくりを、より高いレベルへと押し上げていくため、今後の県づくりの指針となる新たな総合計画「やまぐち未来維新プラン」の策定に取り組んでいる。
- 地方が主役となる時代を迎えようとする中、社会の変化をチャンスと捉え、人口減少・少子高齢社会にあっても、誰もが、未来に希望を持って暮らせる「安心で希望と活力に満ちた山口県」の実現に挑戦していく。